きこえとことばの教室便り

佐世保市立清水小学校 きこえとことばの教室 No. 10

きこえ（耳の中の音の伝わり方）について

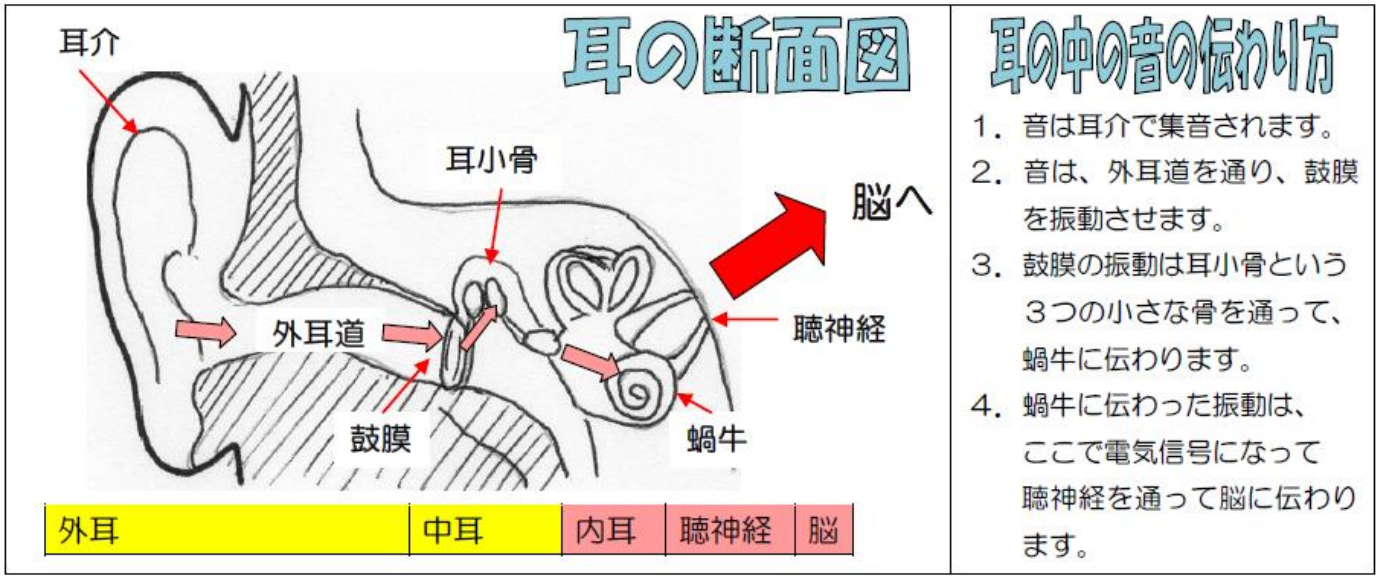
今回は、きこえ（耳の中の音の伝わり方）についてのお話です。

「きこえにくい（難聴）」を理解するためには、まず、「耳ときこえのしくみ」について、理解が必要かなと思います。

そこで、「耳の中の音の伝わり方」について、まずはお話ししますね。
下の絵を見てください。耳の断面図です。

耳と言えば、目立つところは「耳介（じかい）」ですが、
きこえに関わるところは、もっと奥の部分です。

耳からきく音は、**外耳、中耳、内耳、聴神経**そして脳へと進んでいきます。
詳しくは、右の「耳の中の音の伝わり方」を見てください。



耳の中のきこえのしくみは、なんとなく理解できたでしょうか？

では、「きこえにくい（難聴）」についてのお話です。

「きこえにくい」難聴の種類は大きく２つに分かれます。

ひとつは伝音性難聴（でんおんせいなんちょう）、もうひとつは感音性難聴（かんおんせいなんちょう）です。詳しくは次の表を見てください。

難聴の種類

種類	原因	症状	例
伝音性難聴	外耳道・鼓膜・耳小骨などの外耳・中耳（音を振動で伝える部分）	音が伝わりにくい	中耳炎などで鼓膜に穴があいたり、耳小骨の動きがわるいなど
感音性難聴	蝸牛など（内耳）・聴神経・脳（音を電気信号で伝える部分）音を聞き分けるところ	大きい音はきこえるが、小さな音がきこえにくくなり、それと共に「聴き分ける」ことも難しい	突発性難聴 加齢による難聴 騒音性難聴 など

※聴きづらさはそれぞれ個々によって程度も異なります。

また、混合性難聴（伝音性と感音性の混合）というのもありますよ。

「きこえにくい」がどのようになっているかの把握は大切なことなので、難聴のお子さんは、病院やきこえとことばの教室などで、定期的に聴力検査や聴力測定などを行い、きこえの力（聴力）の管理をしています。

参考・引用文献：難聴児・生徒理解ハンドブック（学苑社）リオネット補聴器HP

次回は、この教室で行われていることをお知らせしますね(^O^)／